

戦後ふくしまの考古学

福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで

いわじゅく
戦後間もなく、岩宿遺跡（群馬県みどり市）では相澤忠洋氏によって関東ローム層から旧石器時代のものとみられる石器が発見され、とろ
あいざわただひろ
登呂遺跡（静岡市）では住居跡や水田跡などの弥生時代のムラの本格的な発掘調査が行われました。これらは日本に新たな歴史をもたらしました。

同じ頃、福島県内でも首藤保之助氏により成田遺跡からナイフ形石器等が採取され、県内各地の遺跡では発掘調査が進められています。特に社会科教員をはじめとする指導者のもと、高校の史学クラブなどの学生を中心とした活動が盛んになり、『福島県学生考古学会』が設立されます。やがて、卒業した会員たちが関りながら『福島県考古学会』が発足します。その後の埋蔵文化財の調査と保護に大きな役割を担っていきます。

今回の展示では、福島県考古学会顧問であった故目黒吉明氏の旧蔵資料などから、昭和20年代半ばから昭和40年代にかけての福島県の埋蔵文化財の取り組みを、関連する史料や遺跡の発掘調査の成果と出土品によって振り返ります。

福島商業高等学校 採集品

福島市音坊遺跡の調査にて



浪江町高塚古墳群の調査にて



楓葉町天神原遺跡の調査の様子



『福島県学生考古学会』の設立のころ

昭和二十年代 [一九四〇—一九五〇]



「..新しい日本歴史の究明に寄與致したいと思い、ここに福島県学生考古学会を設立しようとするものであります。(一部抜粋)」

昭和24年（1949）7月17日、全国に先駆けて『福島県学生考古学会』が設立します。発起人には、各校の代表者
が名を連ね、顧問には長谷部言人や山内清男などの著名な研究者が指導者として加わっています。

学生考古学会には、県内の高等学校を中心に33校が参加しています。地域ごとに支部が作られ、複数の学校が合同で県内各地の遺跡の発掘調査を行い、成果を報告しています。また、設立に先立ち、福島市矢細工遺跡では発掘調査の実地演習が行われ、7校約150人が参加しています。



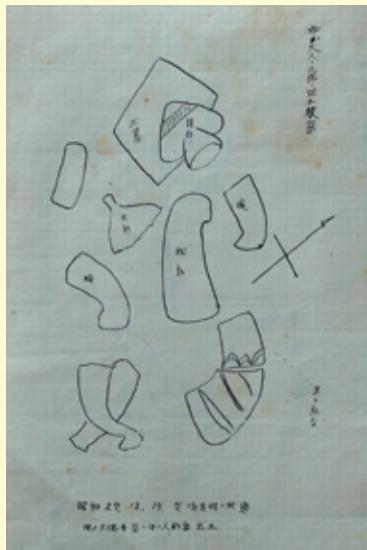
三脚石器・土製品 福島市音坊遺跡ほか出土品



横穴式石室写真 双葉町長塚（沼ノ沢）古墳群



繩文土器 福島市竜坊遺跡出土品



土偶出土状況メモ・写真 福島市上岡遺跡

とる

昭和三十年前後 [1952-1960]

『福島県考古学会』の発足のころ

学生考古学会の卒業生たちと
県内の研究者から、全県的な研
究組織を希望する声が高まり、
昭和30年に『福島県考古学会』
が発足しました。

その後間もなく、学術的な調
査研究のほかに、開発時に発見
されるなどの不時の緊急調査も
増加します。各自治体では埋蔵
文化財に対応する体制が整わず、
会員が調査や指導に赴く機会が
増えましたこととなりました。



弥生土器 郡山市御代田遺跡出土品



舟形石棺写真 浪江町高塚(南大阪)古墳群



敷石住居跡写真 石川町長郷田遺跡

昭和四十年前後

『福島県史』刊行のころ

「1960年代」



縄文土器 古殿町三株山（麓）遺跡出土品



弥生土器 楠葉町天神原遺跡出土品



弥生土器 郡山市柏山遺跡出土品

『福島県史』の編纂が始まると、地方史研究や文化財保護への関心が一層高まります。福島県考古学会の会員たちが中心となって、考古資料に関わる「第1巻 通史編1 原始・古代・中世」と「第6巻資料編1 考古資料」が刊行され、市町村史の編纂も進みます。

一方、この時期は大規模な開発事業が全国的に推進され、それに伴う遺跡破壊が深刻化します。福島県内でも開発に伴う緊急調査の規模が拡大するにつれ、開発側との調整や調査体制の整備を行政が担当するようになります。

昭和40年代後半には、福島県を縦断する東北自動車道の建設が計画され、福島県教育委員会が県内の研究者を糾合して発掘調査を実施しています。

本展示及び解説資料作成に際し、ご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。（順不同、敬称略）

目黒明彦、栗原葉子、渡邊一雄、堀江格、じょーもぴあ宮畑、郡山市教育委員会、大安場史跡公園、須賀川市立博物館、双葉町教育委員会